



第34期 ビジネスレポート

2017年10月1日 ▶▶▶ 2018年9月30日

BUSINESS REPORT

Hospitality Value Provider

最高の“おもてなし”を支える最適のパートナーに



セントラルサービスシステムグループ
CENTRAL SERVICE SYSTEM GROUP

株式会社CSSホールディングス

証券コード：2304

華やかな表舞台を支えるかけがえのないパートナーであり続けたい

私たちの提供する“おもてなし”がお客さまにとってなくてはならないものであると確信し、日々、最高のパフォーマンスで確実な業務を遂行し続けたいと考えています。



ホテル・
レストラン



金融機関



商業施設



学校・病院・
介護施設

ビジネスサポート

CSSホールディングス

▶グループの経営・管理

CSSビジネスサポート

▶総務・人事・経理管理事業

スチュワード事業



株式会社

セントラルサービスシステム

▶スチュワード事業

フードサービス事業



株式会社

センダン

▶総合給食事業



ヤマト食品株式会社

▶食材販売事業

空間プロデュース事業



東洋メディアリンクス株式会社

▶映像・音響機器等販売施工事業



音響特機 株式
会社

▶音響・放送機器等
販売事業

MOOD:

▶音響・放送機器等
販売事業

ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第34期(2017年10月1日から2018年9月30日まで)のビジネスレポートをお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

第34期は、売上こそ前期を上回ったものの、利益は前期に及ばず増収・減益という結果でありました。また、第34期を始期とする新たな3年間の中期経営計画の初年度でありましたが、計画値には届かず、厳しいスタートとなりました。

一方で、中期経営計画に掲げておりますM&Aですが、新しく2社をグループに加えることとなりました。株式会社パトリオットボタン^{※1}とMood Media Japan株式会社^{※2}です。前者はまだまだ売上規模も小さく連結収支に貢献するまでには至りませんが、フードサービス事業における外食事業進出の足がかりとして見守っていただければと思います。

Mood Media Japan株式会社につきましては、これまでの50%出資を100%としたもので、空間プロデュース事業における音楽事業の中核会社としての成長を期待しています。

第34期にスタートした経営管理体制、すなわち、これまでの1社1セグメントを刷新、スチュワード事業、フードサービス事業、空間プロデュース事業からなる3つのセグメントに再編した上で、それぞれに担当取締役を配置する新しい経営管理体制は順調に滑り出しております。グループとしての経営判断の迅速化を進め、事業の選択と集中を視野に入れ、グループとしての企業価値を向上させることで、株主のみなさまのご期待に応えていく所存です。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月

※1 株式会社センダンが2017年8月17日に子会社化。

※2 東洋メディアリンクス株式会社が2018年10月26日に100%子会社化。



代表取締役社長 林田喜一郎

売上数値 (百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2016年9月期	連結32期	18,129	447	503	464
2017年9月期	連結33期	16,895	262	291	152
2018年9月期	連結34期	17,326	253	270	158



スチュワード事業

【構成会社】
 ・株式会社セントラルサービスシステム(CSS)：ホテル・レストランを中心とする食器洗浄および管理業務



売上高
6,759百万円
 前年同期比 3.2%増 ↗

営業利益
216百万円
 前年同期比 7.1%減 ↘

■当期の業績について

スチュワード事業では、ホテル・レストランを中心として食器洗浄および管理業務を全国に展開しています。当期の市場環境は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、当社の主要顧客であるホテル業界の市場は活況を呈していると言えます。

そうした状況下で、当期は新規案件が年間16件(上半期6件、下半期10件)となり、近年と比べても多くの受注を獲得することができました。特に2つの大型案件における売上の積み上がりや、既存事業所が堅調に推移したこともあり、当期は増収となりました。

一方、最低賃金の上昇や社会保険料の負担増に加え、新規案件のイニシャルコスト(導入費)、ユニフォームのリニューアル費用等がかかったため、営業利益は前年を下回りました。しかし、上期開業した事業所については費用の回収は済んでおり、下期開業した分は現在進行している今期に回収できる見込みです。新規事業所の売上増も考えると、今期で営業利益は充分回復できるものと見込んでいます。

■今後の取り組みについて

業界ナンバーワン企業としての当社のブランド力、業界内での信頼関係における引き合いなどを活かした営業を行っています。既にお取引のあるホテルチェーンの更なる開拓、拡充など、継続したアプローチを続けてまいります。また、

昨今、新規のホテルは宿泊特化型が増加しているため、厨房清掃や客室清掃、一般清掃といったスチュワードに関連する付帯業務への拡大も図っています。本業であるスチュワード事業での信頼をうまく結びつけ、新しい展開にできればと思います。

そして重要課題は、人材への取り組みです。現在、アルバイト全体の15%程度が外国人採用ですが、今後この比率が増えていくことは避けられないと考えています。その時に備え、当社では今から研修制度等をより充実させるべく取り組んでいます。人件費については、仕事の質を落とさないためにも、お客さまと交渉し適正価格をいただくよう努めています。加えて、コンプライアンスの遵守や従業員の働きやすい環境作り等にもしっかり取り組んでおります。

当社では、現場が営業の最前線です。良い仕事が次の仕事に結びついていくものだと思います。今後もなお一層の信頼を勝ち取りながら、新たな展開も含めて事業を推進してまいります。



左:CSS取締役 角川秀昭/右:CSS業務企画部長 江原理人

フードサービス事業

【構成会社】
 ・株式会社センダン(SDN)：従業員食堂およびレストラン運営の受託
 ・ヤマト食品株式会社(YMT)：食材販売および受託給食



■ヤマト食品の当期業績と今後の取り組み

給食業界全体の動きとして、高齢者福祉施設等への食事提供の需要は増えているものの、人手不足が顕在化しています。献立付き食材販売では、顧客側での料理人の不足が原因での失注も多く、また価格競争にもさらされ、非常に苦戦を強いられました。

他方、業務を請け負う受託給食は、当期に新規案件を6件獲得することができました。しかしながら全体では売上を下支えするまでには至らず、結果的にはヤマト食品の業績は、減収減益となりました。

今後は食材販売事業の立て直しを行い、全体の売上を落とさないことを課題としています。完全調理品や半調理品といった手間のかからない食材や、新技術による食材販売ルートの開拓など、様々な方面で時代のトレンドに対応すべく取り組んでいきます。

■センダンの当期業績と今後の取り組み

センダンにおける売上は、概ね順調に伸長しました。特に、宿泊主体型ホテルの朝食レストランについては、これまでの実績が評価され引き合いも増加し、新たに4件を受託しました。現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて新規ホテルの建設が進んでおり、これから更に事業を伸ばすことができる環境にあります。新規だけでなく、大手ホテルチェーン等への広がりも期待できるため、今期も引き続き朝食レストラン分野の拡大に注力してまいります。

売上高

5,196 百万円
前年同期比 1.7%減

営業損失

△38 百万円
前年同期は営業利益24百万円

また、介護施設への展開も引き続き広げてまいります。

2018年8月、外食事業を行っている株式会社パトリオットボタンを子会社化しました。当社の既存ビジネスとは、特に朝食レストラン運営の領域でシナジーを発揮できるとみえています。ホテル経営を考えると、朝食レストランと同じ場所で昼夜もレストラン営業を行うことができれば理想的です。パトリオットボタンの主力メニューであるパスタは、顧客の厨房設備で調理できるので、昼夜営業についてもお客さまに新しい形でご提案できるものと期待しています。

人員不足については、コストも含め厳しい採用状況が続いていますが、やる気をもった人材が活躍できるよう、キャリア形成も含めて環境を整えることが大事だと考えています。そのためにも、セグメント全体のいち早い黒字化を目指して取り組んでまいります。



当社専務取締役(フードサービス事業担当) 川勝雄介

空間プロデュース事業

【構成会社】

- ・東洋メディアリンクス株式会社(TML)：映像・音響機器等販売施工
- ・音響特機株式会社(OTK)：音響・放送機器等販売



売上高

5,341 百万円
前年同期比 6.0%増

営業利益

127 百万円
前年同期比 591.3%増

当期は、新たな顧客層への販売増、映像ソリューション案件の拡大など、各事業および部門で売上を堅調に積み上げ、増収となりました。また、利益率の高い海外製品の売上が伸びたことにより、大幅な増益を達成しました。

■東洋メディアリンクスと音響特機について

東洋メディアリンクスは、メガバンク、大手商業施設、メーカー、ホテル等にセキュリティシステム及び映像・音響システム、BGM、香り等の空間演出をプロデュースし、機器設備の施工、サービスを含めたトータルソリューションを提供しています。

音響特機は、コンサートホールやテーマパーク等の施設で使用される、設備用のスピーカーやアンプなど、国内外の業務用音響機器の販売を行っています。コンサルティングから納入後の調整まで請け負い、音響機器に関わるプログラミングなども行っています。

■セグメントおよびグループのシナジーについて

東洋メディアリンクスが販売する音響機器は、海外製品を中心に音響特機から供給されています。当期から一つのセグメントとして構成されたことにより、音響機器等の販売戦略についても従来以上の連携が可能になりました。また、グループ全体としては、ホテルを中心としたシナジーができあがりつつあります。当期に東洋メディアリンクスが受注しましたホテル ユニバーサル ポート ヴィータは、セントラル

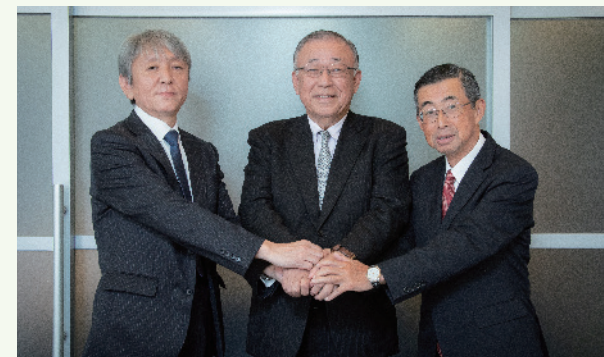
サービスシステムと連携しています。

■セグメントとしての今後の市場環境

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ホテルをはじめ様々な施設の建設やイベントが活性化していくと見込まれます。それに付随して、映像・音響設備の需要もますます高まっていくものと考えています。

最近では、映像・音響機器のIPネットワーク化が進み、新しい市場が生まれ出されています。海外ブランドの店舗では、ネットワークにより世界中どの店舗でも同じ映像やBGMが流れるなど、IP系の技術力が問われている時代です。

我々の技術とノウハウはそうした市場の期待に応えられるものだと信じています。そのためにも良い商材と力のある人材を獲得し、一層の業務拡大に努めてまいります。



左:OTK代表取締役社長 西田耕 / 中央:当社取締役(空間プロデュース事業担当) 辻勝太郎
右:TML代表取締役社長 森永洋一郎

CSSグループを支えるグループ会社を連載でご紹介します。

フードサービス事業

株式会社センダン

ホスピタリティの精神で安心・安全な食環境を提供してまいります。



美味しく・楽しく・健康に 手作りにこだわる給食サービス

当社は、主に給食業務の業務委託という形で事業展開しており、ホテルや一般企業等の従業員食堂が一つの柱です。加えて、近年はビジネスホテルの朝食レストラン運営、福祉施設や病院でのいわゆるメディカル給食の分野なども手がけており、事業所数は全国で100を超えています。

当社は1997年に設立、2002年12月にM&Aによりセントラルサービスシステムの傘下に加わりました。社名の由来は、「梅檀(せんだん)は双葉よりも芳し」という中国の諺です(梅檀は発芽の頃から香気を放つ。大成する人は幼少の頃から優れているというたとえ)。

全国で何千とある給食事業者のなかで、当社は決して大きな会社ではありませんが、大手ではできない手作りにこだわり、自社でできることはすべて行うという方針で事業を展開しております。そのため、私どものスタッフが現地加工し、季節や風土、気候に合わせた味つけを行っております。

メニューも、各事業所で当社の栄養士と調理スタッフが

お客様の要望をお伺いしながら、季節やイベント、地産地消のメニューを取り入れて作り上げます。また、大手食品メーカーとのコラボメニューや、有名ラーメン店のレシピを使ったメニューなどで話題性も取り込むなど、お客様を飽きさせない様々な工夫をしております。特にホテルの朝食レストランでは、周辺ホテルとの差別化も意識して取り組んでおります。

最近では、ビジネスホテルの朝食レストランの受注が増えており、一つには私どもの手作り感が高く評価されているのだと思います。

食の安心・安全のために

当社のこだわりを守るため、社員の教育が最も重要課題であると考えております。そのため、研修については、非常に多岐にわたって行っております。マネージャー研修、調理研修、スタッフ間のOJT等の社内研修だけでなく、外部の専門家を招聘した社外研修も行っております。

特に一番時間をかけているのは衛生面の教育です。当

社の事業は、安心と安全が最も大切なことです。ただ食事を作るだけでなく、衛生基準のルールに則り、当社のマニュアルに沿ってきちんと作られなければなりません。

当社の衛生管理については、内部による衛生チェックだけでなく外部機関による厳しいチェックも行っております。そうした取り組みもあり、顧客をはじめ様々なところで表彰されています。

人と人とのふれあいを大事に

当社は今後も手作り感にこだわり、サービスを提供してまいります。お客様の要望を最大限叶えられるよう日々あらゆる角度から検討し、お客様と共に事業を進めております。

ホテル業界は転職・異動が多いため、お取引のあった担当者さまが転職・異動先でも当社にお声がけくださり、新たな受注につながるものが数多くあります。ひとえに、こうした人と人とのネットワークが当社の事業の核だと考えています。

お客様に喜んでいただけることを第一に、これからも事業に邁進してまいります。



(取材協力)
株式会社センダン
代表取締役社長
磯邊 和彦 (写真左)
取締役
峠 幸久 (写真右)

2018年9月期におけるグループ各社のトピックスをご紹介します。

CSS センtralサービスシステム
SDN センダン
YMT ヤマト食品

TML 東洋メディアリンクス
OTK 音響特機

フードサービス
事業

SDN

株式会社パトリオットバトンがグループイン

株式会社センダンは、2018年8月17日、株式会社パトリオットバトンの全株を取得しました。株式会社パトリオットバトンは、自家製麺の Pasta 専門店を中心としたレストラン・洋菓子店を運営し、現在4店舗で外食事業を展開しています。同社が加入することにより、当社グループの新たな領域を拡大してまいります。

《会社概要》

社名 株式会社パトリオットバトン
所在地 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町1-7-2 ウェストスクエアビル3階
設立 2010年5月21日
代表 代表取締役 讃岐 康司
従業員数 85名(2018年9月30日現在)



▼金星Pasta



▲カフェではケーキも

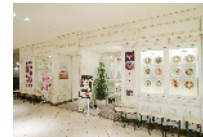


フジフランス▶

SHOP LIST



☆金星Pasta なんばパークス店
〒556-0011 大阪市浪速区難波中2-10-70 なんばパークス 6F
☆金星Pasta くすはモール店
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町15-1 くすはモール2F
保存料を一切使用しない自家製麺をはじめ、塩・卵・スープ・オリーブオイルなど素材にこだわったPastaを提供。



なんばパークス店



☆KINBOSHI PASTA CAFÉ
〒589-0013 大阪府大阪狭山市菜葉木1丁目2702-3
金星Pastaのメニューに加え、パティシエが作るオリジナルケーキも食べられるカフェ。



☆Fujifrance
〒534-0024 大阪府大阪市都島区東野田町2丁目1-38 京阪モール1F
カラフルで多種多様なモンブランを中心にソフトクリームなどフォトジェニックなスイーツが人気の洋菓子店。

スチュワード
事業

CSS

セントラルサービスシステムの2018年9月期新規受注

新規事業事例

ホテル ユニバーサル ポート ヴィータ (2018年7月より)

当事業所は、ホテルのグランドオープンに合わせ、一から現場作りに関わりました。

また、同ホテルの「デジタルサイネージ」「フレグランス」「館内アナウンス」「BGM」はグループ会社の東洋メディアリンクスが納入しています。有名声優を起用したオリジナルアナウンスをはじめ、総合的なコーディネートによる空間プロデュースを実現しました。

▼TMLのデジタルサイネージ



CSS×TML
W受注!

空間プロデュース
事業
フードサービス
事業

OTK TML SDN YMT
展示会への積極出展を行いました

当社の認知度向上と市場拡大を図るため、2018年9月期において展示会への出展を積極的に行いました。

各展示会では多数のお客さまにブースをご訪問いただき、当社グループのサービスや製品の魅力をアピールすることができました。今後も様々な展示会やイベントの出展を通じて、新規受注へとつなげてまいります。

【2018年9月期 出展実績】

音響特機

『InterBEE 2017』2017年11月15日(水)～17日(金) 幕張メッセ
『サウンドフェスタ2018』2018年6月27日(水)～28日(木) 大阪国際会議場
東洋メディアリンクス
『SCビジネスフェア2018』2018年1月24日(水)～26日(金) パシフィック横浜
ヤマト食品
『Care TEX One in 横浜2017秋』
2017年10月31日(火)～11月1日(水) 横浜産貿ホール マリネリア
ヤマト食品、センダン共同
『東京ケアウィーク2018』2018年3月14日(水)～16日(金) 東京ビッグサイト

『サウンドフェスタ2018』



専門ソフトウェアの基礎講座を音響特機が担当し、2日間で合計200人以上の方に受講いただきました。

『東京ケアウィーク2018』

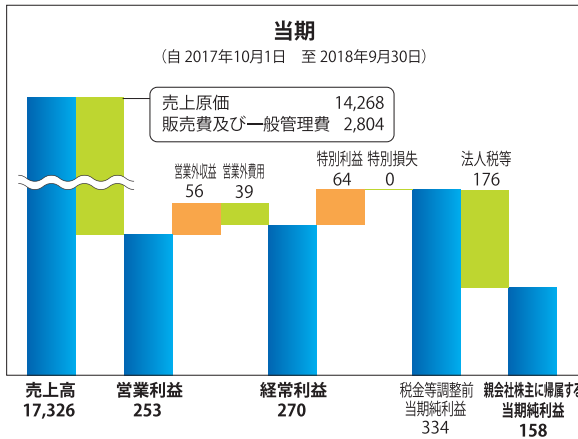


センダンにとって初めての展示会出展となり、試食も実施しました。

■連結財務データ

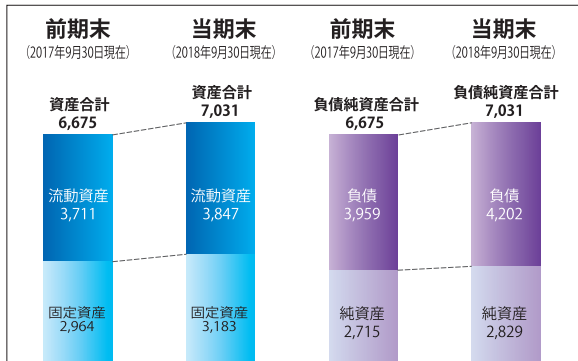
損益計算書の概要

(単位:百万円)



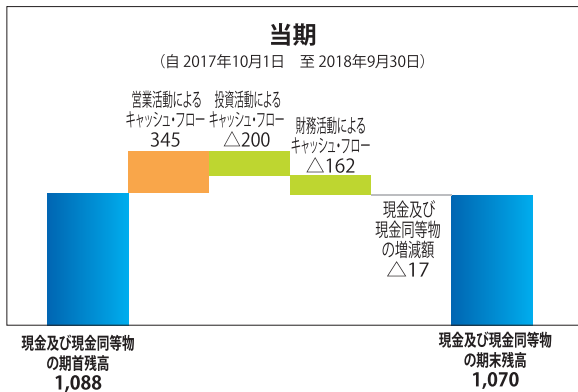
貸借対照表の概要

(単位:百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

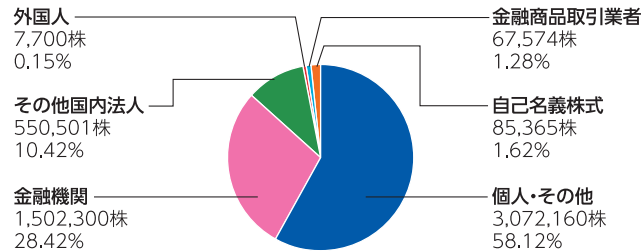
(単位:百万円)



■株式の状況(2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 20,776,000株
発行済株式の総数 5,285,600株
(内、自己株式85,365株)
株主数 1,777名

■株主分布(2018年9月30日現在)



*分布比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

■大株主

株主名	所有株数	持株比率*1(%)
野口 緑	1,305,000	25.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090802)	654,000	12.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口620090803)	606,000	11.65
S:TEC株式会社	423,500	8.14
原田 千壽	190,200	3.66
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)*2	154,800	2.98
三瓶 秀男	130,900	2.52
日本証券金融株式会社	87,500	1.68
株式会社広美	80,000	1.54
CSSグループ従業員持株会	70,500	1.36

*1 上記の持株比率は、自己株式85,365株を控除して計算の上、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

*2 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)は、役員向け株式給付信託の信託財産として154,800株を保有しております。なお、当該株式は自己株式に含めておりません。

■会社概要(2018年9月30日現在)

会社名 株式会社CSSホールディングス
本社所在地 東京都中央区日本橋小伝馬町10番1号
会社設立 1984年(昭和59年)12月
資本金 393百万円
連結従業員数 5,730名
(うち、パートナー(パート・アルバイト)5,147名)

役員

代表取締役社長	林田 喜一郎
取締役会長	野口 緑
専務取締役	川勝 雄介
取締役	三瓶 秀男
取締役	辻 勝太郎
取締役 監査等委員(常勤)	渡邊 和男
取締役 監査等委員(社外)	越智 敦生
取締役 監査等委員(社外)	田口 泰一

株式Information

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 毎年12月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年9月30日
株主名簿管理人(特別口座の口座管理機関) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

<住所変更等のお申し出先について>

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

<未払配当金の支払について>

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

ホームページのご案内

最新の実績紹介のほか、ニュースリリースやIR情報など、当社の事業活動についての情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



<https://www.css-holdings.jp/>

セントラルサービスシステムグループ
CENTRAL SERVICE SYSTEM GROUP
株式会社CSSホールディングス

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町10番1号
TEL : 03-6661-7870 / FAX : 03-6661-7871